



1 月号

平成29年1月10日発行

荏田小だより

横浜市都筑区荏田南町694番地 [Tel.911-0149]

アドレス [http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/eda/]



チームワーク

校長 澤田 有子

新年明けましておめでとうございます。

2017年もまた、皆様にとりまして希望にあふれるよき一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。本年もまた、子どもたちの健やかなる成長を目指して、職員一同「チーム荏田」として力を合わせ、力を尽くして参りますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

さて、私たちはチームワークという言葉を使って「チームワークが取れている」とか「チームワークがよい」と言うことがありますが、その言葉にはどういうニュアンスが含まれているのでしょうか。チームメンバーが、協調性や助け合いの気持ち、責任感などを発揮しながら共通の目標に向かって活動し、ある一定の成果を得られたときに発せられる賞賛の言葉として使うことが多いのではないかと思います。

昨年開催されたリオオリンピックの「陸上男子400mリレー」では、100mを9秒台で走る選手もいなければ、個人走では決勝まで勝ち残った選手もない日本チームでしたが、バトンパスの工夫が必ずや勝機につながると北京オリンピックで得た確信のもとに、その技術を高めるために練習を重ね、スタート直前まで緻密な調整を行い、見事銀メダルを獲得することができました。その時、日本中が「チームワークの勝利である」と絶賛したことがまだ記憶に新しいところです。

これまで私たちは、農耕民族であった日本人にとってみんなで協力して働くことは伝統的な習慣であり、集団で何かをすることをチームワークそのものであると捉えてきたように思います。また、波風を立てないで活動することやリーダーの号令の下、自分の思いや考え、アイデアを胸にしまい込んで一糸乱れぬ行動をとることがチームワークであると勘違いすることはないのでしょうか。

これからの『チームワーク』とは、異なる専門性をもったチームメンバーが、相互に関係しながら活動や仕事を行い、自律的に目標を達成することではないかと思います。故土光敏夫氏(第4代経団連会長)は「一人一人の長所が異質であればあるほど、チームワークの相乗効果は大きい。」という言葉を残しています。異質性・多様性をもつメンバーは、組織がより優れた成果を上げるための原動力になるに違いがありません。キーワードになる力は「伝え合う力」と「受容力」でしょう。学校という小さな組織でも、国や世界という単位でも...

繭玉(まゆだま)飾り

荏田小ならではのお正月飾り「繭玉飾り」が、今年も玄関に飾られました。この飾りは、養蚕や農作物の安全、豊作を田畑の神に祈願した農村の伝統行事の一つです。21日(土)に行われる「どんど焼き」では、この飾りも火に焼べます。そして、その火で焼いた餅を食べ、無病息災を祈ります。

作ってくださったPTA役員の皆様、ありがとうございました。

